

## 梅まつりによせて

イベント部会では、今年度から葛井寺の「藤まつり」と、道明寺天満宮の[梅まつり]の期間中に、それぞれ境内でミニガイドを行いました。ひとつは、自分達の郷土の歴史を学ぶため、ひとつは、より多くの方々に郷土の古寺・古社である葛井寺や道明寺天満宮をより身近に感じてほしい、そして我々観光ボランティアの活動の一端を知ってほしいとの思いから始めたものです。道明寺天満宮の「梅まつり」今年度は2月8日～3月8日迄の期間中、境内に設けさせていただいたブースでは、手作りの「天満宮縁起」のチラシと藤井寺観光マップを備え、広く参詣客、観梅客の方々に天満宮をはじめ藤井寺市の古寺・古社を紹介する一方「四季の古墳」パネルの展示、あるいは梅を題材にした句会を催すなどのミニイベントも行いました。延べ19日間の期間中、用意したチラシ500枚が2週間で無くなり、あわてて増刷するやら、観光マップも底をつき、商工会に貰いに走るやら、計画の目論見以上の成果がありました。期間中お世話になった宮司さん、禰宜さん、藤井寺市梅の会の皆さん、祭明会、敬神会婦人部の皆さんなど多くの方々のおかげで成功裡に終えることができました。紙上を借りて厚くお礼申し上げます。 T. Y



明日香村の向原寺

## 《リレーウォークに参加して》

3月14日「蘇我氏ゆかりの地と大化の改新」のウォークに参加しました。当日は朝から雨、中止かなと思いつつも7時に飛鳥京の観光協会に電話した所予定通りとの返事で、気持ちは少しブルーに成りながらも9時に橿原神宮前駅集合。藤井寺市観光ボランティアの会からは6名の参加でした。雨の中に拘らず150名が参加、私達も25名で1班となり、その班にはガイドさん2人とサポーターさん1人に付いて頂きました。橿原市から明日香村に入ると景色が一変し、午前中は傘をさして説明を聞き、屋敷場所の石舞台古墳では雨が上がり、そこから見る景色は山々の間から霧が立ち上がり、まるで大パノラマを見ている様に美しかったです。石舞台古墳は石の総重量が2300t、石室の広さは8坪あり、中でも最大の天井石は77tに及びます。それ以外にも巨石で造られた謎の石造物が沢山有り飛鳥人の石に対するロマン・ミステリーなどを感じ、これらの巨石の運搬は「修羅」かな…との思いが巡りました。明日香村の向原寺(別称は元善光寺)の難波の堀江と言う池で「この池は本田善光が仏像を拾って持ち帰り長野善光寺の創建に繋がる」と説明を受け小山善光寺の一光三尊仏を思い浮かべていました。雨の中での出発で8Kmのウォークでしたが楽しい一日でした。悪条件の中、飛鳥京のガイドの皆様方、有難うございました。 Y. K

## 古室山の修復作業に参加

登れる前方後円墳として親しまれている

古室山古墳に崩落が見られる為、当時文化財保護課の山田氏指導の下、3月27日土壌の積み上げ作業を行った。参加者は市民と観ボラの有志約20人そのほとんどが還暦過ぎた人達で、男性陣は土壌造り土砂2t車で2回袋は400個慣れぬ重労働でぎっくり腰になった人もいた。本当にお疲れ様でした。女性陣はローラー作戦でゴミ拾いを主に行いましたが、その時見つけたものがありました。それは古墳のほぼ中程に今も私有地があり、その区域に赤いロープを巡らし「私有地につき入るな」の看板が吊ってありました。

…今も筈が取れるとか…知らなかったな-?…

K. T



## 《桜・ウォーク&コンサート》 2009年4月5日開催

藤井寺市、観光ボランティアの会と羽曳野市、FMT史遊会初のコラボレーションが実現しました。共通の文化遺産「古市古墳群」を媒介として、以前から協働のかたちで、両市の市民の関心を高めるためのなにかやりまじょうと、協議をかさね、この日を迎えました。当日は前半のウォーク一般参加者103名(子供を含む)スタッフ約30名(両会合計)午後、峯塚公園のコンサート開演時にはさらに、50名程度の聴衆が加わり、盛り上がりしました。うす曇りの空の下、心配された桜の開花状況も満開。見所を組み合わせたコース、力強いブラズバンドの野外コンサート、まさに「桜よし、ウォークよし、コンサートよし」の三拍子揃った時機を得た企画でした。

## 今年の葛井寺「ふじまつり」は 4月19日～29日迄

藤井寺市商工会と藤花育成会主催で行われました。舞台が設けられ、河内音頭、コンサート、筑前琵琶演奏、高石ともや、フォークコンサート、最後に井真成慰霊祭と盛りだくさんのイベントが行なわれました。私達、藤井寺市観光ボランティアも4月27日大きな舞台の上で、「紙芝居・三題」を総勢11名で上演し、チームワークよく、観客の皆様にも喜んでいただき、自信を深めることができました。 O. M

今回の紙芝居は「ガイド」をする時に、何か役にたつのでは…と思つたのがきっかけです。中野ちよ作の「藤井寺民話」の中から選んだ伴林氏神社の「うっかり かみなり」と上田池、下田池方面の「やつつけられた、たかたかぼうず」の2作でどちらも子供にもわかりやすい内容です。全く素人の紙芝居でしたが、観ボラの仲間と楽しく公演(?)できてよかったです。又川上さんの「とべとベルカ」の終了後、なんと偶然にも「縮の木」にあげはちょうが止まった光景を目にした時の感激も忘れられない思い出になりました。 Y. T

## 驚いたお話

約千三百年前、遣唐使として唐に渡った井真成。その墓誌が西安で見つかったことを知った岸和田市在住の人が、これは素晴らしい名前だとお孫さんに「真成」と名付けました。これを知った関係者はえー、すごい！と驚きの声をあげました。四歳になった真成君とご家族が藤香る葛井寺へお参りに来られた時の出来事でした。



## あの植え垣は何？

仲津姫陵の前方部の北西の堤にある周囲30mの植え垣は何ですかと、よく聞かれますので調べました。

## 極楽寺の墓所について

- ◆昔は隣接する畑地に墓が点在していたが、それを現在の場所にまとめた。ただしその時期は不明。
- ◆墓の形態は浄土真宗の昔の形式を継承しており、碑はつくらず石を置いた形式となっている。因に墓碑をつくる形式は江戸時代後期からとか。  
極楽寺住職談

## 正辰祭(しょうしんさい)・・・が行われました H. S

晴天に恵まれた平成21年4月1日応神天皇恵我藻伏崗陵(正式名菅田御廟山古墳)遷葬所前において菅田八幡宮宮司、宮内庁関係者参列のもと午前10時より厳かに行われた。まず、参道の手前で手を洗い(そこには、水桶・杓・杉の葉の入った桶・懐紙が用意されていました)清めた後「酒・米・海の物・山の物・塩水」が遷葬所正面に運ばれお供えされました。正辰祭はあまり聞き慣れない言葉ですが「正辰」とは仏教用語で、祥月命日のことだそうです。陵墓前で命日に行う行事をさします。ちなみに神道ではこの命日を「星辰」星辰祭と云います。